

平成31年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名： ミナトブンカサイ実行委員会

1 事業のタイトル

ミナトブンカサイ ～開港120周年に、ちょっと先の未来を創造する。～

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

① どのような事業に取り組むのか

私たちは今回の事業で、以下の3点に取り組みたいと考えています。

1. 清水港日の出地区でイベントをしかけ、空間の利用イメージを高めたり、提案を発表する
2. エリアブランディングのデザインを提案・発信する
3. 将来的に開発を進めるための「関係者プラットフォーム」のきっかけをつくる

現在、清水港の日の出埠頭地区においては年間約40回の豪華客船の来航により外国人観光客も増えており、日の出埠頭地区の再開発や防潮堤の計画、海洋文化都市としての構想が進められています。では、海洋文化都市としての深みや価値を高め、市民や観光客にそれを伝えながら、まちづくりや再開発を推進するには、今後どのような活動が必要でしょうか。

当団体では2011年から、現在の港(日の出埠頭)地区や、旧川湊(次郎長エリア)地区における歴史および景観上の地域資源に関わる調査を踏まえて、関係者および市民の方々に地域資源の存在に気づいて頂くためのイベントや街歩きを開催したり、今後のまちづくりに活かせるブランディング・エッセンス(以下、ブランディング要素)について検討を重ねてきました。これらのほとんどは、海洋文化都市構想に関わるものです。

そこで、開港120年を迎える2019年において、当団体ではブランディング要素を紹介する市民や観光客へのガイドをはじめ、「ミナトブンカサイ」の開催によってブランディング要素を活用したちょっと先の未来を創造し、倉庫街および前面道路の活用方法や、次世代モビリティの社会実験、および各種賑わい創出の実践を産官学の連携により行いたいと考えています。これにより、清水港の次世代に向けた価値・深み・可能性を多くの方と共有し、日の出埠頭地区におけるより良い開発への機運がつくれればと考えています。

また、ミナトブンカサイの開催によって形成される産官学による活動ワーキングをきっかけにして、今後の日の出地区を中心としたアーバンデザインの詳細を検討する継続的なプラットフォームにつながれば、という希望を持っています。

②事業の背景と効果

近年、日の出埠頭エリアに関わる委員会や協議会が幾つか存在し、各観点から議論が進められていると聞いています。しかしながら、これらの情報は、市民には断片的にしか伝わっておらず、当エリアに関わる事業者の方々の間でも、必ずしも共有されていないように思われます。エリア内の街路形成に向けた具体的なストリートデザインや、賑わい創出に向けた戦略、そしてエリア・ブランディ

ングに関わる広報は、アーバンデザインにおける非常に重要な観点ですが、これらを自由な雰囲気の中なかで語り、体験し、共有できる場があればいいと思っています。これがひいては倉庫を所有する事業者の方々の経営計画等にも反映されると期待されます。

### ③市との協働を希望する理由

今回の事業で、市との協働を希望する理由は、以下の3点です。

1. 「ミナトブンカサイ」およびその関連イベントの準備、実施に関わる行政的支援（例：道路占有許可手続き、事業者、地元関係者への照会等）を希望します。
2. 「ミナトブンカサイ」を通して提案するエリアブランディングを共有し、海洋文化都市構想との連携を探ることを希望します。
3. 将来的に開発を進めるための「関係者プラットフォーム」の可能性を探ることを希望します。

これらのうち1については「ミナトブンカサイ」を実施するための具体的協働です。2, 3については、将来的な希望ですが、当団体が大学チームで構成されることによる第三者的、客観的な立場を活かして、産官学協働による日の出埠頭地区のデザインに関する継続的な活動ワーキング（プラットフォーム）に発展させたいと考えています。

### ④事業実施により、どのように市民生活が向上し、又は社会的課題の解決につながるか

今回の事業は、いわば具体的なアクションを先行させ、その積み重ねで将来形を探り出すものです。こうした活動は、完成形を描いてから実現を目指して活動する従来の開発と異なり、私たちのようなやわらかい組織が担うものと考えています。そして、将来的にはプラットフォームを形成することで、市民や事業者に対してオープンな話し合いの場を提供し、賑わいづくりの検討拠点となることが期待できます。また、協議会、各委員会、行政で検討・実施している政策や計画を、包括的に情報提供・発信できる場や機会をつくり、日の出埠頭地区におけるより良い再開発が期待できます。

団体名：ミナトブンカサイ実行委員会

### 3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

#### -1. 団体が担う役割

産学連携により港エリアのちょっと先の未来を創造し実践します。具体的には 10 月に開催するミナトブンカサイに向けて下記の内容を実践する予定です。

- ・ 清水（特に日の出埠頭や次郎長エリア）のアーバンデザインに関するトークセッション
- ・ かつてお茶の輸出量が日本一だった清水港における「茶」を通じた交流活動：Shizuoka Teatism
- ・ 次世代モビリティでミナトをめぐる：港エリアを回遊するスロー・モビリティの乗車体験
- ・ 日の出倉庫街の空間作り：パレットによるストリートファニチャー製作・音楽イベント・マルシェ
- ・ 次郎長エリアにおける外国人観光客をターゲットとしたガイドマップの作成・配布
- ・ フォトジェニックコンテスト：清水の知られざる場所を発見したシティプロモーション
- ・ 市民や観光客に向けた清水港および周辺のブランディング要素に基づくガイド

#### -2. 静岡市に担って欲しい役割

- ・ 日の出埠頭エリアの再開発に関わる産官学による情報交流・意見交換
- ・ ミナトブンカサイへの支援と開港 120 周年記念事業との連携・連動
- ・ 今後における産官学による継続的な活動ワーキング（プラットフォーム）の検討

団体名：ミナトブンカサイ実行委員会

#### 4 事業計画・実施スケジュール

次の事業を下記スケジュールで実施する見込みです。

- (1) 会議・制作・準備等の活動の実施：4回（7月、8or9月、10月、2月）
- (2) カフェ運営あるいはガイドの開催（7月13～15日、10月13～14日）
- (3) ミナトブンカサイの実施：10月13～14日（前後日程は準備・片付けを実施）
- (4) イベントの実施報告書等の作成：11～1月
- (5) 実施報告会の開催：2月
- (6) 業務完了報告：3月

#### ● 2019年度 スケジュール

4月	Shizuoka Teatism「海を守るお茶」の企画化
5月	お茶摘み
6月下旬	委託契約締結
	広報媒体の作成（HP、チラシ、ポスター）
7月13～15日	活動実施（1）： 開港120周年記念事業イベントにおけるミナトブンカサイの広報 およびShizuoka Teatism カフェ・ガイド等の企画
8～9月	活動実施（2）： ストリートファニチャーの制作/マップ印刷等 次世代モビリティ（カート）の運用調整（港湾管理局等へ）
10月12～14日	活動実施（3）：ミナトブンカサイ準備・実施・片付け
11～1月	実施報告書等の作成
2月中旬	活動実施（4）：実施報告会の開催 /来年度の企画検討
3月	業務完了報告

団体名：ミナトブンカサイ実行委員会

## 5 実施体制及び主要スタッフの経歴

(応募資格として「静岡市内に事務所がある特定非営利活動法人または非営利の市民活動団体（5人以上の構成員で組織）」とされているので、この欄では、静岡市出身の方や、静岡市の委員などを勤めている方を上の段の方に記載しようと思います。)

	氏名	所属・職位	担当業務	備考・市内に関わる委員や活動経歴など
1	土屋和男	常葉大学 造形学部造形学科 教授	代表	静岡市大規模小売店舗立地審議会委員、元静岡市文化財保護審議会会長、元静岡市景観審議会委員、建築史・意匠
2	志村真紀	横浜国立大学 地域実践教育研究センター 准教授	企画運営	静岡市出身、静岡州市街地活性化協議会委員、建築意匠、地域・都市デザイン
3	黒瀬武史	九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門 准教授	企画運営	静岡県・静岡市 清水都心 WF 地区 都市デザイン専門家会議 委員 都市計画、都市デザイン
4	一ノ瀬彩	茨城大学都市システム工学科 助教	企画運営	静岡市出身、建築意匠 地域ブランディング
5	杉山智之	常葉大学・静岡理工科大学 非常勤講師	企画運営	静岡市出身、次郎長生家の改修設計 担当、歴史意匠、建築設計
6	佐藤健司	静岡理工科大学理工学部建築 学科 教授	企画運営	建築設計、都市設計
7	長尾亜子	静岡理工科大学理工学部建築 学科 准教授	企画運営	建築意匠、建築設計
8	萩原拓也	東京大学大学院工学系研究科 特任助教	企画運営	都市計画、都市デザイン

### \* ミナトブンカサイにおける連携事業者

- ・ 株式会社 鈴与
- ・ 株式会社 ボクラノマチ
- ・ 次郎長商店街、等

### \* 各大学における学生・教員の参加人数（予定）

- ・ 常葉大学：20 名程
- ・ 静岡理工科大学：10 名程
- ・ 横浜国立大学：10 名程
- ・ 東京大学：2 名程
- ・ 九州大学：2 名程
- ・ 茨城大学：2 名程

6 特にアピールしたいこと (専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など)

●専門性

都市計画、都市・地域デザイン、建築史、建築意匠、建築設計の各専門性を有した大学教員によるメンバーを中心とした研究活動をはじめ、各大学に所属する大学生・大学院生により歴史的資産を活用するためのミナトブンカサイや、地域資源を案内してお伝えする散歩イベント等、これまでに数々の企画を実施してきました。

●実績

2011年	・「清水港日の出地区周辺のまちづくりに関する調査研究報告書」(静岡市都市局都市計画部都市計画課からの受託：東京大学)
2012年	・「子供向け日の出地区の探検とワークショップ」
	・「清水港における港湾成立の歴史と歴史的資産に関する研究」大森文彦・黒瀬武史(東京大学),日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画),pp.753-754,2012
	・「第1回 ミナトブンカサイ」(主催：東京大学 / 参画：常葉大学)
2013年	・「日の出埠頭倉庫群 実測調査報告書」：東京大学・常葉大学・しみず蔵倶楽部
	・「清水港日の出地区とその後背地域の戦後における変遷」萩原拓也・黒瀬武史(東京大学),日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画),p.745-746,2013
	・「第2回 ミナトブンカサイ」(主催：東京大学 / 参画：常葉大学)
2014年	・「清水みなと散歩デラックス」(主催：常葉大学・東京大学・横浜国立大学・茨城大学等)
	・「第3回 ミナトブンカサイ」(主催：常葉大学 / 参画：東京大学・横浜国立大学等)
	・「遊休内港地区の斬新的再生に関する研究 -顕著な歴史的価値を有さない港湾施設を活用した事例を対象として-」大森文彦・黒瀬武史(東京大学),日本建築学会計画系論文集79(697),p.701-709,2014
2015年	・「第4回 ミナトブンカサイ 2015 ~秋の夜の石蔵ギャラリー~」(主催：常葉大学 / 参画：東京大学、横浜国立大学、茨城大学等)
2016年	・「歴史的建造物を有する街区における社会実験を通じた環境デザイン教育」土屋和男(常葉大学)・黒瀬武史(東京大学),常葉大学造形学部紀要,第14号,2016
2017年	・リサーチ・発表会「ブランディング・エッセンスを活かした地域活性化」(主催：横浜国立大学)
2018年	・「港町のブランディング・リノベーションに向けた景観構成に関する研究 -静岡県清水港を対象として-」(LIXIL住生活財団 研究助成：横浜国立大学、東京大学、常葉大学、九州大学、茨城大学)
	・「清水港周辺におけるブランディング・エッセンス」志村真紀・萩原拓也・土屋和男・黒瀬武史・一ノ瀬彩,日本建築学会大会建築デザイン発表会,14031,2018
2019年	・「清水港日の出倉庫街におけるブランディング・リノベーションの提案」志村真紀・萩原拓也・土屋和男・黒瀬武史・一ノ瀬彩,日本建築学会大会建築デザイン発表会,2019

### ●年数を重ねることによる効果

これまでにミナトブンカサイは2012年度から4回開催し、各回におけるフェーズにより内容は変わっています。具体的には、倉庫群の歴史的建造物としての存在を気づいて頂くことを目標とした段階から、倉庫群の活用方法としてアートや音楽をコンテンツとしたシミュレーション、夜における演出や活用に焦点をおいたシミュレーション等を試みてきました。これに伴い、大学に加えて、地元の活動体とも連携して、地域、まちとつながる体制の模索を重ねています。そして今回は、再開発計画が具体化するなかでブランディングすべき要素を強調し、それを伝えるための各種企画を計画しています。今後、産官学連携のネットワークを強化し、まちづくりにおける継続的なプラットフォーム形成につなげたいと思っています。

### ●独自性

当事業の独自性は、多くの大学が連携していることが大きな特徴です。これだけ多くの大学や教員が複数年に渡り自主的に関わっているのは、全国のまちづくりの状況を見渡しても、非常に稀な状況であると言えます。多くの大学が関わっている理由としては、ポテンシャルが非常に高い地域でありながらも、それが活かしきれてない状況、失われる可能性があることや、清水港周辺地区の課題が複層的に絡み合っていることが挙げられます。このような状況のなかで、複数名の大学教員が関わることで、客観的かつ偏りのない知識を提供し、第三者の立場として行政や事業者間の仲介が可能で、また、学生が参加することによって賑わいのある空間の創出や、地域資源の価値や可能性を伝える活動を行えます。

### ●先駆性

将来的には、より多くの市民が関われるように、年に1回のミナトブンカサイの時だけでなく、日常におけるまちづくりの一貫として、市民や事業者の方なども気楽に話せるオープンなプラットフォームづくりや、少し先の未来をシミュレーションするイベントや社会実験が必要であると考えています。

そのような機会と場として全国各地で立ち上がっているのが、「アーバンデザインセンター (UDC)」です。設置の仕方は各都市で様々であり、特定する空間を常時設置して市民に開放しているタイプもあれば、特定する空間を常時設置せず年に数回の機会と場をつくってアーバンデザインについて検討しているセンターもありますが、いずれにせよ持続的に機会や場を運営することが重要です。

また、アーバンデザインセンター (UDC) から派生して、海のエリアを含む UDC-SEA という系統が横浜で発足しています。静岡市が海洋文化都市の拠点を目黒地区におき、陸上のアーバンデザインだけでなく、海洋における空間もデザインする拠点として UDC-SEA ができれば、全国的にも先駆的な活動が推進できると考えます。